

あけまして

おめでとうございませす

神埼市長 松本茂幸



市民の皆さまには、ご家族おそろいで希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、近年殊に、国際情勢は平和を希求する人々の願いとは異なる事象、事案が多数見受けられる情報にあふれていきます。まことに残念でなりません。神崎市

におきましては、国政上の日韓関係においても心配です。

王仁博士顕彰事業を通して、神崎市民と韓国霊岩郡民との草の根民間交流を促進するとともに、子ども（中学生）同士の国際交流による相互のグローバルな発想力、想像力、さらに国際平和に貢献する大人の人材育成に寄与できるものと考えているからです。

今年には合併して15年目、神崎市の新庁舎が6月に、また、脊振町複合施設が12月に落成します。合併して待ちに待った市の顔である市庁舎の完成は、市民に齊しく喜びであり、神崎市発展への期待を抱いていただけの場の象徴としての存在を思うとき、私は感激と感謝を覚える次第です。

合併のメリットとして、合併後10年間（結果的に15年間に延長）に127億9千万円の合併特例債の使用が認められていました。そのような中、神埼郡は一つの希望を捨てずに吉野ヶ里町との再合併を考えていたことから、吉野ヶ里町の元町長の江頭正則氏および前町長の多良正裕氏に打診しておりましたが、要請は叶えられませんでした。そこで、神崎市新庁舎の建設を決心しました。

新庁舎、複合施設の建設は、国が許容する期間満了に1年の余裕をもって取り組むこととしました。このことで、近年の災害復旧工事とオリンピック関連工事による建設現場の資材（高力ボルトほか）などの不足から、工事完成の遅れが発生したものの、期限・資金的に難なく対応できるわけです。私は、安堵し、余裕をもって市民の皆さまとともに完成の日を楽しみに待ち、なお、感謝をもって迎えたいと思っています。多くの関係者をはじめ、多くの市民の皆さまのご支援協力にお礼を申し上げます。

市政運営においては、多岐多様な行政ニーズに対応した行政サービスが求められる中で、限られた財的・人的な市の能力に依じての市民サービスに取り組み、努めてまいりました。地方分権が叫ばれて久しくなりますが、「まちづくり」は「他人ごと」ではなく「自分ごと」として考え、かつ行動をしていたかなければと考えていたことから、市民の皆さまの相互協力と連携に基づく「市民協働のまちづくり」を推進してまいりました。地域協働推進事業の取り組みはまさに「市民協働のまちづくり」そのものであります。この事業は、市民の皆さまのご理解とご協力によって、市内に広く浸透させることができたことに感謝申し上げます。

また、一方で、神崎市は、幸せつなごうかんざきみんなで支え合い、誇りと笑顔あふれるまちを目指して、『掲げる『第2次神崎市総合計画』に基づくまちづくりが始まっております。私は、市の組織を細分するのではなく、逆に、今ある組織を大きく3つの施策追求ブロックで相互連携し、まちづくりの目標実現を図ることとします。

そこで、職員がこのまちづくりを理解することを求め、心一にした協力と積極的な実行をお願いいたしました。既に庁舎内部では、その取り組みにかかり、施策検討を進めていることをお伝えいたします。

その3ブロックの内容を極々大まかに紹介します。

第1に「安全安心への取り組み」

近年、特に今日では「想定外とは言えない」大雨の降り方が尋常ではありません。城原川上流部の脊振地区にそのような大雨が降れば、堤防決壊がなくても、特に城原川の左岸（東側）には多くの野越しが存在しており、思いを超えた多量の濁流が野越しを越流（氾濫）し、拡大して大被害をもたらすことは必定であります。城原川と田手川の間の南部平坦部は、3mから5mの浸水が想定されます。一日も早い、①より大きな城原川ダムの完成②高台避難所の整備③自家用車とともに市民が避難できる道路の整備④災害備蓄品の準備拡充…などを考えています。（神崎市国土強靱化計画の作成）

第2に「健康寿命の確立への取り組み」

この実現には、三つのアプローチと治療を考えています。市民の皆さまが幸せであり、かつ、笑顔あふれるには健康が絶対だと思えます。このことから、人を車に例えれば、まず①燃料が適性でなければなりません。これは、正しい食事、適正な栄養を取り入れることだと思います。健康につながる食事のあり方を指導できるように取り組みます。次に②車のすべての部分が正常にかつベストに作動しなければなりません。これは、子どもは健全な発育、成長がなければならぬことから、これに伴う支援に取り組みます。また、成人は点検を意味する検診を徹底し、健康状態を維持するとともに、特に高齢者には筋トレなどを促し、自分のことは自分でできる体力の保持に取り組みます。さらに、③運転手の法令に従った正しい運転操作がなされなければ、実際の運行は許されるものではありません。これは、健全な正しい思考、判断の基、家庭、地域、社会活動が求められるものと考えることから、

積極的な団体活動や社会教育活動に取り組みます。最後に、人は、どんなに注意し日々の生活を送っていても、事故や病気に見舞われることがあります。こんなときは、治療と復旧をしてもらわねばなりません。それには、事前の注意と予防が必要だと思えますので、健康に繋がる予防への施策にも取り組みます。

第3に「地域の活性化への取り組み」

基幹産業である農業は、規模の大型化、法人化が図られています。米・麦・大豆のみではなく他品目生産に取り組みむなど、増益を図る必要があります。製造部門やサービス部門においても、なかなか苦戦していると聞き及んでいます。このような中で、市内一様に地域の経済活性化を図ることは大変なことであります。できないことではありません。しかし、市としてもいろんなことに挑戦的に考えてまいります。市民一人ひとりの方が、発想力、想像力、閃きによる経済活動プランを立て、その実現にアタックしてもらいたいものです。これに、市はできる支援を積極的に取り組みます。

以上、思うつくままに述べさせていただきましたが、これからの神崎市まちづくりは、市役所のみでできることは何一つありません。すべて市民の皆さまの賛同と協力、ご支援が必要です。

このことは第一に市議会議員の方々や意見のやり取りを重ね、議論を経て、その結論が得られたら、それに向けて執行部（市役所）はもとより議会も市民の皆さまも心一にしてまちづくりに臨めれば、素晴らしい「市民協働のまちづくり」ができると思えます。このようにできるよう取り組んでまいります。この一年、神崎市のますますの発展、招福と市民の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和2年元旦

新年のご挨拶



神崎市議会

議長 山口 義文

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

輝かしい令和2年の年頭に当たり、神崎市議会を代表しまして、新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中、市民の皆さまには市議会に対し深いご理解とご協力を賜り、お蔭をもちまして、議会活動に専心できましたことを心より感謝申し上げます。

近年、全国的に人口が減少する中で、当市においても同様であり、今後ますます少子高齢化が進行すると見込まれています。

このような状況の中で、人口減少対策は喫緊の課題として取り組まなければなりません。また、昨年は夏場の大雨によ

る大きな災害が、佐賀県でも発生しました。

幸いにも神崎市では、人命に関わる被害は無かったものの、災害はいっ起るかわかりません。日ごろから防災に対する備えをしておくことが大事であると、改めて痛感したところであります。

市議会としては、市政に対し本当に市民が必要とするサービスが、効果的に提供されているのか、市民の代表として厳しい目で行政の執行状況を監視します。また、今後とも市民に開かれた議会として、意見交換会の充実を図るなどして、市民の皆さまの声を市政に届けるとともに、更なる議会改革に努めていく所存であります。

本年には、新庁舎および脊振町複合施設が完成いたします。まさに、市は様変わりしていくこととなり、これが神崎市発展の一翼となっていくものと願うものです。

最後になりましたが、本年もより一層のご支援、ご協力をお願いしますとともに、市民の皆さまのご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



神崎市教育委員会

委員長 末次 利明

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、輝かしい令和2年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆さまには、日頃から本市の教育行政に深いご理解とご支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

元号が「令和」に改元され、社会は少子高齢化やグローバル化、情報化、技術革新など加率的に変化をしています。こうした変化の激しい世の中で教育はどうあるべきか。社会の急速な変化に対応する教育をより充実させるためには、学校だけでなく、学校・家庭・地域社会が相互に連携し、それぞれが適切に役割を果たすことが重要であると思います。

学校教育では、「新学習指導要領」が令和2年度から小学校で、また、令和3年度から中学校で全面实施となります。

新たに取り組む内容もしくは重視すべき内容として、「外国語教育」「道徳教育」「プログラミング教育」「言語能力の育成」などが示されています。すでに、神崎市は、市内全小学校で小学校1年生からの

英語の授業を実施しており、小学5年生には「オンライン英語」を導入しています。中学校では国際交流を通して、異文化理解や郷土理解を推進しています。さらに、郷土への関心を深め、郷土を愛し、郷土を誇りに思う心情を育むために、市内の全小・中学校で「神崎・ふるさと学習」を実施しています。また、神崎市では「育てよう規範意識」を基に「神崎市四か条の誓い」を定め、今年度、「すべてのものに思いやりの心で接します」の中に「協調性」を小項目として追加しました。これまで同様に「四か条の誓い」についてご家族で話し合い、子どもの発達段階に応じた内容で「誓い」を立てていただくようお願いいたします。

学校教育のみならず社会教育においても、取り組むべき課題があります。特に、市民の皆さまに「生涯にわたる学習意欲を刺激する事業の推進や知的に洗練された市民の生活の場の提供」を行うためには、中央公民館や脊振公民館（脊振町複合施設）、千代田文化会館、市立図書館等の活発な活用が必要と考えております。公民館等が主催する講座等の充実、また、来年度オープンする新しい図書館をさらに多くの市民の皆さまに愛され、活用していただけるような図書館にしていきたいと思っております。

教育委員会は、「子どもたちの未来のために」「市民の皆さまの生涯学習のために」本市教育の充実・発展に全力で取り組んでまいります。

皆さまの今年一年のご多幸を心より祈念いたします。ご挨拶いたします。

今年の抱負

総務企画部

本年は、「第2次神埼市総合計画」3年目を迎え、引き続き市全体の均衡ある発展のための施策を総合的に展開し、本計画の目指すべき将来像である「幸せつなごう かんざき」の実現に向けたまちづくりを進めます。

人口減少対策では、昨年拡充した事業の実施などで、移住・定住の促進を図り、人口減少の抑制に努めます。

また、市民協働のまちづくりを推進するため、市民団体等が自主的に行う公益的な活動を支援します。

施設整備では、新庁舎は今年9月、脊振町複合施設は令和3年2月の供用開始に向け工事の進捗を図っています。

千代田庁舎は、今年10月から図書館の拡充や公民館機能の導入に向けた整備工事に着手する予定です。

旧JA会館では、1階に図書館、2階に保健センター機能を導入する工事、旧神埼建設業会館では、神埼情報館として整備工事を進めており、今年6月頃の供用開始を目指します。

また、葬祭場は、今年10月の供用開始に向け工事の進捗を図っています。

防災面では、最近、頻繁に発生する自然災害から市民の生命、財産を守るため、防災訓練などによる防災意識の向上を図るとともに、最新の防災情報を的確かつ迅速に提供することで災害に強いまちづくりを進めます。また、消防体制の充実強化や交通安全の広報・啓発を実施し、市民の皆さまの安全安心の確保に努めます。

ふるさと納税では、インターネット受付の拡充など改善を図ったことにより、対前年比で2倍以上の寄付を頂いており、今後も制度の趣旨に沿った運営を行い、財源の確保と地域資源の活用を推進します。

また、新たな地域資源として、菱の外皮と桑の葉をブレンドした桑菱茶を開発し、その有効成分による市民の生活習慣病の減少を目指します。

財政面では、限りある財源を重点的・効果的に活用し、健全な財政運営に努めます。

市民福祉部

総合窓口は、市民の皆さまに最も近い窓口として、迅速で誠

実な対応に努めます。

マイナンバーカードの普及啓発を充実し、カード普及率の向上とともにコンビニ交付など利便性の向上を図ります。

健康増進では、昨年4月に開設した「子育て世代包括支援センター」運営について、庁内連携を充実し、妊娠準備期から切れ目のない支援に努めます。また、健康の基本である健康診断・食事・運動を推進し、市民の健康寿命延伸を図ります。

国保は、県主体の財政運営により、引き続き健全な事業推進を行います。

環境面では、第2次神埼市環境基本計画を作成予定です。

児童福祉では、就学前教育・保育の充実に努めます。また、子育て支援センターを拠点に、親子同士のふれあいの場、子育て中の方との出会いの場づくりに取り組み、子育て支援に努めます。

地域福祉の推進として、障がいの有無に関係なく、地域の中で支え合い、共に暮らせるまちづくりを目指して支援を充実させてまいります。また、生活困窮者には、一人ひとりの抱える課題の解決と生活の安定・自立を目指すための支援を実施しま

す。

高齢者福祉では、住み慣れた地域で健やかに安心して生き生きと暮らすことができるよう、さまざまな高齢者サービスを実施してまいります。

産業建設部

農林水産部門では、農業・農村の有する国土・自然環境の保全、水源の涵養、良好な景観の形成など、多面的な機能が発揮されるよう農業生産基盤である

圃場、農道、農業用水路や防災重点ため池の整備を行い、農業経営の安定を図るための取り組みと併せて、新規就農者の支援・確保に努め農業振興を推進します。

また、森林が持つ水源涵養や土砂災害防止など多面的機能の持続可能な森林づくりを進め、健全で豊かな森林を次世代へ引き継ぐため、森林整備を推進します。

商工観光部門では、市のイメージアップにつながる観光PRと王仁博士顕彰公園を拠点とした観光・交流の促進に努めます。

また、地域の活性化と定住促進を目指し、商工会との連携による商工業の発展と企業誘致の

推進を図ります。

建設部門では、都市基盤である道路・河川・公園などの機能維持のため計画的に事業を実施します。また、神埼市を南北に縦断するアクセス道路（防災道路）の整備を引き続き検討します。また、老朽化している公営住宅の建て替え・住戸改善等の長寿命化についての整備方針の策定を行います。

城原川ダムについては、城原川の抜本的な治水対策のため、国・県と連携し、ダム事業を更に推進するとともに、ダム周辺地域の振興に向けた検討を進めます。

下水道部門では、公共下水道および浄化槽の整備を行い快適な生活環境づくりに取り組みます。また、4月から公営企業会計を導入し、経営状況の見える化を図り、安定的で持続可能な下水道を推進します。

市民福祉の向上のため、職員一丸となって前進していきます。市民の皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。